

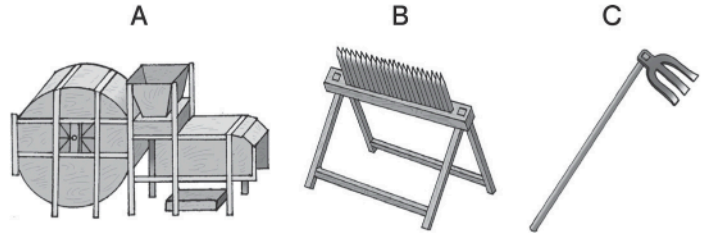
## 近世④「江戸時代中期」

## 基本事項の確認

🕒 10分

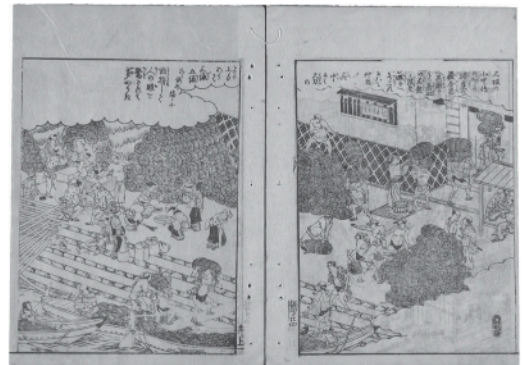
## 1. 産業の発達

- (1) 右の図は、江戸時代に広まった農具について表している。次の説明を参考に、それぞれの農具の名を答えなさい。



- A : 脱穀後に、もみ殻やごみを取り除く。 [ 1 ]  
 B : 稲を束にして一度に脱穀する。 [ 2 ]  
 C : 田畑を掘り起こしたり、ならしたりする。 [ 3 ]
- (2) 九十九里浜ではいわし漁がさかんに行われ、干したものが農業の肥料として用いられた。いわしを干してつくられた肥料を何というか。 [ 4 ]
- (3) 江戸時代に三都といわれ、とくに栄えた都市は、江戸と大阪と、もう1つはどこか。 [ 5 ]
- (4) 商人が自分たちの営業の独占をはかり、業種ごとに組織した同業者組合を何というか。 [ 6 ]
- (5) 江戸の三井や大阪の鴻池のように、金銀銭貨の交換を行った商売を何というか。 [ 7 ]

- (6) 右の図は、諸藩が年貢米の管理のために置いた建物を表しており、大阪に多く置かれた。この建物を何というか。 [ 8 ]



- (7) 江戸の日本橋を中心に整備された、関西や東北地方への交通の幹線となる街道をまとめて何というか。 [ 9 ]
- (8) 日本海側の地域から大阪へ米や特産物を運ぶことに利用された航路を何というか。 [ 10 ]

## 2. 元禄文化

- (1) 井原西鶴が、男女の恋愛など世間のできごとをえがいた『好色一代男』などの小説は何と呼ばれたか。 [ 11 ]
- (2) 上方で『曾根崎心中』などの人形浄瑠璃や歌舞伎のすぐれた脚本を書いたのはだれか。 [ 12 ]
- (3) 17世紀後半に、それまでの連歌を芸術性の高い俳諧として発展させたのはだれか。 [ 13 ]
- (4) 「見返り美人図」などをえがき、浮世絵を始めたのはだれか。 [ 14 ]
- (5) 江戸時代には儒学が学問の中心となった。儒学の中で、君主と家臣などの上下関係を重んじることから、とくにさかんに学ばれた学問は何か。 [ 15 ]

次ページにつづく▶▶▶

### 3. 幕府政治の乱れと社会の変化

- (1) 第5代将軍の徳川綱吉は、動物愛護令を出して殺生を禁じた。この動物愛護令を何と  
いうか。 [ 16 ]
- (2) 第6代・第7代の将軍につかえ、幕府の財政難を解決するために、徳川綱吉の時代に  
落とした貨幣の質を戻したり、長崎での貿易を制限したりした儒学者はだれか。 [ 17 ]
- (3) 18世紀ごろ、各地で手工業が発達した。桐生や足利などでさかんにつくられたものは  
何か。 [ 18 ]
- (4) 18世紀ごろから農村で行われるようになった、問屋が農民にお金や織機を前貸しして  
布などの製品をつくらせ、安く買い取る工業の形態を何と  
いうか。 [ 19 ]
- (5) 19世紀ごろから農村で行われるようになった、地主や大商人などが作業場を建設し、  
人をやとって分業で製品をつくる工業の形態を何と  
いうか。 [ 20 ]
- (6) 農村で、きびしい年貢の取り立てに対して、農民が団結して抵抗し、大名の城下に押  
し寄せるなどしたことを何と  
いうか。 [ 21 ]
- (7) (6)をおこした中心人物は、きびしく処罰された。仲間を抜けて裏切ることをしないこ  
とを示すために全員が署名したもののうち、中心人物がわからないように、円形に署名  
したものを何と  
いうか。 [ 22 ]
- (8) 都市では、生活の苦しい人々が、米屋や質屋などの商人をおそうことがあった。これ  
を何と  
いうか。 [ 23 ]